

令和元年度 行政評価表

担当課	学校給食センター
章名	第3章豊かな心を育むまちに暮らす
節名	第4節質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	4. 学校給食の充実

施策の内容	目指す姿	学校施設の整備、改修が進み、また、地域防犯体制も充実し、児童生徒の安心・安全な教育環境となっています。
	現状と課題	<p>町内の小中学校のすべては耐震化整備が完了していますが、施設の多くは昭和40年代から50年代に建設されたものが多く、老朽化改修と質的整備に重点をおいた計画的施設整備が必要となっています。</p> <p>長期的には子供の数は減少することが見込まれますが、現状では北部地区の土地区画整理事業に伴う人口増加により、一部の学校では児童生徒数が急増し大規模校となっていることから、それに伴った環境整備を進めていく必要があります。給食センターについても設備を含め老朽化改修が必要となっています。食の安全や食育の充実のためにも地場野菜等の利用をさらに進めていくことが求められています。</p> <p>子供たちが安心・安全に学校生活を送ることができるよう、子供たち自らの意識を高めるとともに、学区区ごとのスクールガードリーダーや学校応援団のボランティアなどにより地域の安全に取り組んでいます。今後も子供たちの安全な環境づくりを推進していく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成30年度)
(1)	学校給食における地場産物使用割合	21.40%
(2)		
(3)		
(4)		

成果指標の推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績
(1)	19.20%	21.10%	21.20%	21.40%	20.90%
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	119,268	110,264	0	0	0	110,264

今年度の施策達成度	A	<p>A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)</p> <p>B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)</p> <p>C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)</p>
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修を実施したことで安全衛生意識が向上し、安心して食べられる美味しい給食の提供ができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、小中学校が休校となり、3月に使用予定であった米、野菜の地場産物の使用ができなくなったため、地場産物の使用割合が落ち込んでしまった。 ・施設の老朽化対応については、緊急性および重要性の高いものから順次更新工事を行った。(食缶洗浄器入替工事、空調機設置工事)

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	生産者の高齢化と農地周辺の都市化が進み、年々生産規模が縮小し、地元野菜の活用が難しくなっている。
	住民ニーズの変化について	食物アレルギー等への対応や児童・生徒に好まれる給食の提供が求められている。
	展開した事業は適切であったか	安心安全な給食の提供、児童・生徒への食育の観点からも適切な事業であったと考えられる。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・食材等の価格上昇や学校給食実施基準の改正により、現在の給食費では、国産品を基本とする食材の調達や地産地消の推進に影響を与えたり、バランスの取れた魅力ある学校給食の提供に支障をきたす。 ・給食設備の老朽化が進み、故障の頻度も高く、応急修繕等により対応を行っているが、修繕が不可能となった場合、給食の提供に支障をきたす。

次年度以降における施策の具体的な方向性	地産地消を進めていくため、JA、アグリ推進課などと連携を図り、地元野菜の積極的な活用を行います。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	各職員がコスト意識を持ち、調理機材、機器のメンテナンス、修繕について職員で可能なものは職員が対応し、経費の削減を図っています。また、効率的に給食運営を実施するために、問題点について常に検討し、学期間ごとにシフトやグループの見直しを行うなど適正な対応を行っています。
----------------------	--